



# 大宮小だより

【学校教育目標】自ら学び、心豊かで、しなやかに生きる子どもの育成

令和6年3月15日  
大宮小学校通信 第16号  
校長 加藤 真也

## 学校自己評価・学校関係者評価 ～第2回学校運営協議会で協議～

2月26日(月)、第2回学校運営協議会が開催され、学校関係者評価が行われました。大宮小だより第15号で紹介しました児童・保護者アンケートの結果等も参考にして行った学校自己評価に対し、柏木昭久委員長をはじめとする8名の委員のみなさんから様々なご意見をいただき、評価いただきました。3つの重点目標に対して「達成」「ある程度達成」の評価をいただきましたが、課題については、引き続き改善を図りながら学校運営を行ってまいります。評価の詳細については裏面に掲載しましたので、ご覧ください。(大宮小学校ホームページ <https://omiya-es.jimdofree.com> でも公表する予定です)

## 絵本「うみがめマリンの大冒険」をいただきました

2月28日(水)、海上保安庁尾鷲海上保安部 市山卓己部長が来校され、絵本「うみがめマリンの大冒険」を贈呈していただきました。

三重県には四日市市、鳥羽市、尾鷲市の3カ所に海上保安部が設置されています。海で起こる犯罪や事故などから私たちの命を守る海上保安部のお仕事。部長さんに小学校では私たちの生活を守る警察署や消防署のはたらきを学習することをお伝えすると、海上保安部も子どもたちの学習のためにぜひ協力したいとおっしゃっていただきました。



## 6年生卒業遠足 ～志摩スペイン村での一日～

3月5日(火)、卒業遠足が行われました。目的地は志摩スペイン村。時には傘をささなくてもいいような小雨の空模様でしたが、6年生10名は、園内のアトラクションを楽しんだり、家族へのお土産を買ったり、おやつやお弁当を食べたり、学校を離れて楽しい一日を過ごしていました。一日一日近づく卒業の日。6年間共に過ごした仲間との別れが近づくにつれ、喜びと寂しさ、希望と不安など、これまで味わったことのないような、いろいろな感情が湧き上がっているのではないのでしょうか。残りわずかとなった大宮小での生活。素敵な卒業式を創り上げていきましょう。



## 新遊具「チャレンジポール」完成！

古くなっていった木製フィールドアスレチックを撤去した場所に、3月7日(木)、新遊具「チャレンジポール」が設置されました。東京五輪の種目になったスピードクライミングのボルダリングのような様々な形と色の突起をたよりにポールを登っていく遊具です。早速、子どもたちは遊具に集まってチャレンジしていました。使い方を守って、安全に楽しく遊んでほしいと思います。

# 令和5(2023)年度 大宮小学校 行動計画・学校自己評価・学校関係者評価

学校教育目標 目指す子ども像 目指す学校像 研究主題	『自ら学び、心豊かで、しなやかに生きる子どもの育成』 ①自ら課題を見つくとこころ考える子「もっと知りたい」 ②自分の考えや気持ちを表現し、伝え学び合える子「伝えたい」 ③お互いの違いや良さを認め合い、自他を大切にできる子 ④しなやかな強さを持ち、なんにでも前向きに挑戦しようとする子 (1)『凡事一流』(2)『明日も来たいと思う学校』 『もっと知りたい伝えたい ~自分の考えや気持ちを筋道立てて表現できる子どもの育成~』	◎学校関係者評価委員(学校運営協議会委員) 柏木昭久、上村勇、小野賢二、出口真市、奥山富子、生駒貞子、吉田正木、水谷奈々美
-------------------------------------	--	--

A-達成 B-ある程度達成 C-未達成 O:成果 ▲:課題 ◆:来年度に向けて

重点目標	行動計画		学校自己評価		学校関係者評価	
	到達度のわかる目標	評価	成果と課題・改善策や今後の方向性	評価	意見等	
「確かな学力の育成」 学びに向かう力、生きていくための思考力・判断力・表現力に 対応できる思考力・判断力・表現力に	(1)学力向上の推進 ①基礎学力の定着と活用 ②学んだりを促す事が好きな児童 ③論理的な思考と表現 ④外国語・情報教育(学習端末活用)の推進	単元テストで学習内容の80%以上の定着。 ※学調や実力テストなどの結果も分析する。  「考えることが好き」と答える児童80%以上。  「論理的に考え表現できる力が児童についてきた」と答える教職員80%以上。  「授業で自分の考えが言える」と答える児童80%以上。	B  A  C  A	○学力調査(4,5,6年)は全国や県の平均を上回る結果を出している。 ○教職員アンケート「基礎学力が身につけている」の項でAB評価93% ○児童アンケート「考えることが好き」の項でAB評価が87% ○児童アンケート「授業で考えが言える」の項でAB評価85% ▲教職員アンケート「論理的に考え表現する力」の項でA評価67%、C評価33%。特に表現力については、従来からの発言では話型が身につけてきているので、国語科による系統的な指導や表現する場づくりを進める。 ◆統書活動の目標を数値化や、授業ツールとしての学習端末の活用を一層進める。児童への生徒指導面、学習面での指導・指示事項を共有し、実践する。	B	・学力向上は先生方の努力の成果である。 ・論理的思考力、表現力を付けるため、その道の専門家の授業を企画してはどうか。 ・読書が好きになる工夫を学校・家庭・地域で考える必要がある。 ・アンケート結果から児童、保護者は学校の教育活動に児童を寄せていることがわかった。 ・読み取る力が弱い、読解力の向上のための取組を進めてほしい。
	(2)特別支援教育の充実 ①子ども理解と支援体制の充実 ②全職員による情報交換と共通理解 ③学校に出にくい児童への対応 ④外部機関(専門機関)との連携	「先生は自分をよく分かってくれている」と答える児童90%以上。  「学校は子どもをよく理解しようとしている」と答える保護者90%以上。  「子ども理解と支援体制が充実していた」と答える教職員90%以上。校内支援会議月1回開催。  SCや奥伊勢支援センターとの連携。(校内研修、ケース会議の実施)	A  B  C  B	○児童アンケート「先生は自分を分かってくれる」の項でA評価62%、B評価36%。(※R5全国6年調査を先生は、あなたのよいところを認めてくれると思いますか):A50%、B40%) ○保護者アンケート「学校は子どもを理解しよう」の項でAB評価86%。 OSCによる校内研修(吃音・チック)を実施し、より適切な児童理解や指導につながった。 ▲教職員アンケート「子ども理解と支援体制が充実していた」の項でAB評価75%。特別な支援を要する児童に対して、マンパワー不足から効果的な配置と実施に応じた適切な支援に努めたり、特別支援学校との連携を進めることで成果に結びつける必要がある。 ◆行動観察と記録によるアセスメントの質を向上させ、TT(チームティーチング)等を適切な支援に繋げていきたい。	B	・支援を要する子どもたちへの対応は努力されていると思うが、不登校児童への対応が見えてこない。 ・「自分のことを分かってくれ」と子どもが思えるように教員には児童理解をしっかりとって大い指導力を発揮してほしい。 ・保育園・学校との途切れない支援を続けてほしい。 ・児童や保護者への適切な対応を引き続きお願いしたい。
	(3)教職員の授業力・資質向上 ①授業力向上(わかる授業)のための研修 ②研究テーマにせまる取組の充実 ③学調やみえスタの分析と授業改善 ④信頼される学校(教職員)	「授業が分かる」と答える児童90%以上。  「学校は分かりやすい授業に取り組んでいる」と答える保護者90%以上。  「研究授業や校内研修は資質向上につながった」と答える教職員90%以上。  「大宮小に対して満足している」と答える保護者90%以上。	A  B  B  A	○児童アンケート「授業が分かる」の項でAB評価98%、A評価68% ○保護者アンケート「分かりやすい授業」の項でAB評価88%、A評価51% ○校内研修では、「筋道立てて表現できる力」を高める授業づくりにより一人一歩の研究実践の行い、指導主事から指導いただいた。その他、生徒指導・人権教育、特別支援教育、防犯などの研修を行い、年間39回の校内研修会を実施した。教職員アンケートでAB評価87%。 ○学調の分析・論理的思考力や表現力の向上へアプローチは一定の成果を挙げることができた。 ○保護者アンケート「大宮小に満足」の項でAB評価92%、A評価49% ◆保護者満足度のC評価8%。さらなる授業改善(単元を通してつきたい力を明確にした単元構想、振り返り活動の充実)としていかな説明が必要である。	B	・研修回数が多く教員の負担になっていないか。 ・「授業が分からない」と回答した子どもには保護者の協力も得て「分かる」と言えるように指導してほしい。 ・分かりやすい授業も大切だが楽しく学べる授業づくりに努めてほしい。
「安全安心で豊かな心を育む学校づくり」 自他の命を守り、自分も他者も大切に 心を育む教育活動	(1)防災・安全・健康教育の推進 ①自分の命を自分で守れる児童の育成 ②教職員の危機管理意識の向上と組織力の強化 ③健康教育・食育の充実 ※コロナ感染症対策	安全教育・健康教育・食育の計画的な実施。 ※年間計画に基づく実施やその内容  「自分の命を自分で守れる児童の育成」と答える児童100%。  「学校は子どもの安全確保対策に努めている」と答える保護者95%。  危機管理に関わる教職員アンケートで肯定的な評価が100%。	A  B  B  A	○月1回の避難訓練、引渡し訓練、安全点検、食育7材料-対応訓練など、年間計画に従い安全教育を実施。保健分野では、薬物乱用防止教室、命の授業を実施。食育についても栄養教諭と担任で計画通りに実施。 ○児童アンケート「地震や火事の時の行動」の項でAB評価97% ○保護者アンケート「安全確保対策に努めている」の項でAB評価98% ○教職員アンケート「職員の安全意識、組織力が高い」の項でAB評価100%。 外部講師による防犯研修を実施した。 ▲保護者意見(熱中症への迅速で適切な対応)への要望あり。 ◆コロナ禍で学んだ感染予防対策の日常化・習慣化を図る。	A	・危機意識を高めるため、震災体験者のお話を聞くことも大切である。 ・避難訓練の積み重ねなどどこにいても自分で守る行動がとれるようになってきた。 ・保育園・学校と合同引き渡し訓練を行ってほしい。
	(2)道徳性・人権意識の育成 ①いじめや差別のない安心安全な学校 ②違いや良さを認め本音が出せる仲間づくり ③教職員の人権意識の向上 ④大宮中学校区人権協会の活動の推進	「学校は楽しい」と答える児童90%以上  「いじめは絶対に許さない」と答える児童100%。  「学校は仲間づくりや心の教育を大切にしている」と答える保護者90%以上。  道徳・人権教育の計画的な実施。 ※年間計画に基づく実施やその内容	A  B  A  B	○児童アンケート「学校は楽しい」の項でAB評価98%、A評価68% ○児童アンケート「いじめは許さない」の項でAB評価97%、A評価88% ○保護者アンケート「仲間づくり・心の教育を大切に」の項でAB評価100% ▲教職員アンケート「計画・カリキュラムに従った道徳、人権教育」の項でA評価20%、B評価67%、C評価13%。昨年度より向上している児童の変容に基づく計画等の改善が必要である。 ◆校内人権集会でのめざす子ども姿を明確にし、学級経営や人権作文への取組を改善していく。	B	・学校がどのような道徳・人権教育を行っているか見えてこない。これこそ家庭・地域と共に取り組むべき。 ・ややもや感を抱えている子どももおり学校を離れると当たり前のことができない「凡事一流」とは程遠い様子が見られる。
	(3)人とつながる力の育成 ①自己肯定感や自尊感情の育成 ②児童会や学級活動で仲間づくりを推進 ③当たり前の事を一流に「凡事一流」 ④QUの分析と活用	「自分には良い所がある」と答える児童90%  「学校は子どもの良いところを認める教育活動を行っている」と答える保護者90%以上  「人と話したり一緒に活動することは楽しい」と答える児童90%以上  児童や教職員(学校全体)に「凡事一流」の精神が根付いてきたと答える教職員80%以上	B  A  A  A	○児童アンケート「自分には良い所がある」の項での評価 A50%、B38%、C9%、D評価3%。(※R5全国6年調査:A43%、B41%、C11%、D5%) ○保護者アンケート「学校は子どもの良いところを認める」の項でAB評価92% ○児童アンケート「人と話したり一緒に活動することは楽しい」の項でAB評価100%、A評価80% ▲自己肯定感については全国的な課題でもあるが、本校でも低い子どもが散見される。達成感を得られる活動を工夫するなど引き続き課題とし取組を継続したい。 ◆「凡事一流」をテーマとして学習・生活の約束の実践・定着に取り組んだ。来年度もその取組を継続する。	B	・他人に褒めてもらうと自信がつけ前向きになる。学級で「友達の良いところ発表会」などを企画するとうい。 ・発達段階に応じて自分の良さを感じ、人とつながる力を育ててほしい。 ・これまでの地域の人との繋がりが大切にしながら、新しい繋がりがもつてほしい。
「地域や学校への愛着と誇りを育む学校づくり」 働きやすい職場環境	(1)地域学習の充実 ①学習のねらい(つたいたい)の明確化と工夫 ②郷土の特色を生かした継続性のある取組 ③人と出合いを通してその思いや願いを知る取組 ④取組の発信	ねらいを明確にして地域学習を行うことができた と答える教職員90%以上  「学校は地域に根ざした活動を大切にしている」と答える保護者90%  「地域学習は好き」と答える児童90%以上  「この地域(ふるさと)が好き」と答える児童90%以上	A  A  A  A	○教職員アンケート「ねらいが明確な地域学習」の項でAB評価93% ○保護者アンケート「学校は地域に根ざした活動を大切にしている」の項でAB評価96% ○児童アンケート「地域学習は好き」の項でAB評価95%。「大紀町が好き」の項でAB評価97% ◆大滝峠等でのキャンプやもちつき感謝祭等の学校行事を再開した。また、保護者アンケートより「大紀町の自然を生かした学校行事」について意見をいただいた。ねらいを明確に地域の方向や保護者の理解・協力を得ながら、地域を学ぶ、地域で学ぶ学習の質を高めていく。	A	・地域学習を支える環境、人材に恵まれていると思う。 ・今年度は園児と児童の交流が増えている。 ・保育園・学校との合同運動会については今後の課題である。
	(2)情報発信の充実 ①各種より、HPによる情報発信 ②授業参観や学校公開の推進 ③学校評価・関係者評価の充実と学校改善	「学校の様子はたよりやHPで知ることができ」と答える保護者90%  「学校は保護者や地域の声を活かした学校経営に取り組んでいる」と答える保護者90%以上  学期に1回の授業参観、各種行事への参加呼びかけを積極的に行う。  学校評価のPDCA化(各学期でメーカツップの評価実施)※評価が改善に結びつく。	A  B  A  B	○保護者アンケート「通信等で知ることができ」の項でAB評価96%。「保護者や地域の声を活かした」の項ではAB評価88% ○地域回覧版で「大宮小より」を回覧し、児童の活動の様子を発信した。 ○保護者に参加してもらう行事は予定通り実施できた。(4月授業参観・PTA総会・学級懇話会、9月運動会、11月文化祭、2月授業参観・講演会)各種行事での保護者の参加率は高く協力体制は充実している。 ◆新聞、テレビ、MCTV等を通じた情報発信を適切に実施する。本年度、高学年で試行した学習端末を活用した情報発信を検討する。	A	・自分の子ども以外のことや卒業後はどうしても学校への関心が薄れる。 ・普段から子どもに地域行事への積極的な参加を勧めることが大事である。 ・地域と保護者が触れ合う機会がない。
	(3)教職員が働きやすい環境づくり ①校内安全衛生委員会の活用と定例化 ②時間外労働削減、会議時間短縮、定時退校、休暇取得	時間外労働の削減(月平均30H以内) ◆上限:月45H、年360Hを超えない。  休暇取得の推進(一人年間18日以上)  会議時間の短縮(1H以内の会議80%)  定時退校日の設定(毎週火曜日、達成率90%)	B  B  A  A	○各学期末に校内安全衛生委員会定例開催、取組の改善を行った。 ○時間外労働上限、月45h、年360h、0人(1月末) ○休暇取得 一人平均20.6日(年休14.1、特休5.6)(1月末) ○会議時間 1H以内 81%(1月末) ○火曜定時退校達成率 97%(1月末) ◆各月平均30H以上となったべ職員数10人 ▲教職員アンケート「勤務時間短縮の取組の推進」の項でA評価13%、B評価53%、C評価33%(昨年:A27%、B53%、C20%)である。意識改革や工夫とともに業務の効率化・平準化や削減が必要である。	B	・負担を少なくするために、地域人材をより活用することが必要である。 ・学校=ブラック企業と言われているが、子どもたちの育成の場、素晴らしい居場所にしてほしい。 ・教員自身や家族との時間も大切にしたい。

A-達成 B-ある程度達成 C-未達成 O:成果 ▲:課題 ◆:来年度に向けて